

田中家通信



株式会社 田中家石材

VOL. 41
発行/株式会社 田中家石材
住所 彦根市高宮町1-0-1
電話 0749(0)10000
HP: <http://www.tanakaya-sekizai.com/>
Mail: info@tanakaya-sekizai.com

今年もお盆が来ました。

お仏壇とお墓に手をあわせましょう。

日本で初めて行われたお盆は、六百六十六年に推古天皇が行った「推古天皇十四年七月十五日齋会」が始まりだと云われています。

お盆とお正月は、ご先祖が浄土から帰って来られます。家にお迎えして一緒にひとときを過ごしましょう。お盆は、過去の慣習を知らず知らずのうちに学ぶ大切な機会です。子どもは、おじいちゃん・おばあちゃんに会い、都会では味わえない田舎の風景、お墓参りなど忘れがたい思い出を心に焼きつけて帰ります。

家族で故郷のお墓参りをし、故人の思い出を語り合うことは、故人や残された家族にとって大変意義のあることです。その経験は子ども達に自然に手を合わせることを身をもって教えることができる良い機会です。なかなかお墓参りに行けない人も、この機会に日頃の感謝の気持ちをご先祖に伝えるに行きませんか。



「依り代」

「千の風」の歌詞に「私のお墓の前で泣かないでください。そこには私はいません。」とあります。私もその通りだと思います。お墓やお仏壇は、ご先祖や故人と出会える「依り代」です。

普段はおられませんが、お墓に手を合わせることで、故人、ご先祖が降りてこられると思います。そのお墓に手を合わすということは、ご先祖や育ててもらったご両親に対する「感謝と恩送り」を意味し、またお墓やお仏壇はそのことを「親が子ども」に伝えていく大切な場所でもあるといえます。

建墓 納骨法要の準備

新しくお墓を建立された時には、建碑式を行います。(入佛式ともいいます。) お墓とお仏壇を新しくする事は基本的にはお祝い事です。(家族が亡くなられた場合に建立される方も多いのですが) 新しいお墓のお披露目を行います。

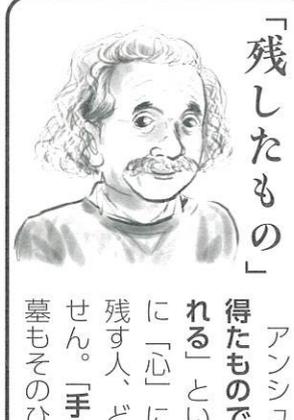
骨壺のままだと、お骨がいつまでも残りますし、陶器内が露で水が溜まります。その際、骨壺のまま納骨しないで、綿の袋か半紙を敷いて、「極楽浄土」の「土」に帰っていただくように納めます。

お墓の列の越し



「お墓、お仏壇は手を合わせるほど良い」という事は、みなさんご理解されていると思います。特にお墓は、家から離れていることが多いので、毎日お墓参りをするのは、なかなか難しいと思います。ましてや、お参りに半日から一日かかるような方は、なおさらですね。今、生きておられる世代の方は、

お墓のある故郷のことは、幼少の時代を含めて覚えておられますが、次の世代になるとまったく関わりがありません。わざわざ愛着のない所に時間をかけてお参りに行くのが、おつくうになるのは諫めません。最近、特に世代交代が進み、お墓の引越しが多くなってきました。最初に述べましたが、「お墓、お仏壇は手を合わせるほど良い」のであり、住んでいる地域に引越す事は悪いことではありません。むしろ、良いことだと思います。



「残したもの」

アンシュタインが「人の価値とは、その人が得たものではなく、その人が与えたもので測られる」という言葉を残しました。生きている間に「心」に残す人と、亡くなってから「心」に残す人、どちらにせよ尊い事には変わりありません。「手を合わせる大切さ」を伝えるお墓もそのひとつではないでしょうか。

お盆とロウソク

江戸時代以前のお盆は貴族や上流階級の行事でした。しかし江戸時代になるとお盆の風習が庶民の間にも広まります。その理由が「ロウソクの普及」にあると云われています。仏壇や提灯に欠かせないロウソクが大量生産で安価に手に入ることで全国に広まったそうです。ロウソクには主に「赤(朱)」と「白」の二色があり、それぞれに意味があります。

一般的な白ロウソクは普段のお仏壇、お墓参りよりもより葬儀や中陰一周忌、三回忌までの年忌法要や祥月命日、月命日などの法要の際に使用します。そして赤(朱)ロウソクは浄土真宗では、七回忌以降の年忌やお彼岸、お盆などで使用される事が多いです。その他では、お正月や仏前結婚式などのお祝いの場面でも使用されます。お仏壇、お墓を新しく建立した際も赤(朱)ロウソクでお祝いします。

日本のお盆行事

日本の有名なお祭りや行事の中でも「京都 五山送り火」「徳島 あわ踊り」「長崎 精霊流し」「沖縄 エイサー」、そして全国で行われる「七夕」「盆踊り」は、仏教・神道を超え、ご先祖様の供養を目的とした、日本の伝統的な行事であるといえます。



墓石とお骨

墓石の一番上の「南無阿彌陀佛」や「先祖代々之墓」が彫つてある部分分を「佛石」といい、お墓にとって最も大切です。弊社は「佛石」を粗末にできないので、永代供養していただけるお寺にもついでいき永代にわたって安置していただいています。

石材店によっては砕いて他に使用したり、安価で引き取りをする業者に渡し、後に不法投棄等で問題になってくる場合もあります。「お参りをしてもらったのだから、ただの石です」と、言われる方がおられます。その際には、「では、その佛石を玄関の沓脱石などに使われ

お墓と風水

よく「風水」という言葉を耳にしますが、「風水」の始まりはお墓だったそうです。気の流れの良いところにお墓を建てて、子孫の繁栄を願うことから始まったものが、いつしか今生きているものの「家」に持ち込んで現代の形になっているそうです。昔から人々は「ご先祖様」あつての自分であり、今の生活があるという感謝の気持ちをもって過ごしていたのだと思います。

お墓に誰を お祀りするか

お墓とは、その家の直系の方が代々はいります。直系以外の方では、独身で亡くなられた方、結婚されて後に苗字を実家に戻された方、水子さんや幼い頃に亡くなられたホトケさんです。兄弟の場合は苗字が同じでも家が違つた場合、同じ墓石には入れないで、敷地内(敷地が狭い場合は隣か近くの墓地)に墓石を別に建てられる方が良いでしょう。奥さんの実家が女性ばかりの場合も兄弟と同じように少し小さめの墓石を嫁ぎ先の墓地の敷地内に建てられる方もおられますし、永代供養墓に納められる方もおられます。永代供養墓のある寺院では「〇〇家先祖代々」と彫り、永代にわたり供養していただけるので安心です。

だれでも同じ墓石に納めるのは、「家」で考えた場合に違う家族が同じ「家」に住むことになりません。その場合、お互い居心地が良いとはいえないし、後からはいる「家」は気を遣うのではないのでしょうか。

「遠い昔のご先祖です」でお墓の中にお骨はありません。墓石だけを撤去していただきたい。とおられる方がおられます。お墓の中の土に還つたお骨を「骨土」といいます。その「骨土」をきちんと永代供養していただくお寺で供養されることをお勧めします。その際に「ご先祖の「戒名」もしくは「法名」をわかる限り調べて半紙に書き、「骨土」と一緒にご供養されるとご先祖様も喜ばれることと思います。